

六  
二  
五

E-1808

0114

普通本第五五號

昭和九年五月十二日

在オデッサ

領事 平田

外務大臣 廣田 弘毅 殿



「ウクライナ」ニ於ケル作付及作柄ニ關スル件

一九三三年南露方面農業ノ成功ニ依リ昨年末以來物資ノ供給ハ改善ノ傾向ヲ示シ險惡ナリシ世相モ幾分緩和セラレタルカ右農業上ノ成功モ當局ノ誇張スル如ク大ナルモノニ非ス殊ニ收穫時ニ於ケル作業組織ノ缺陷、勞力ノ不足ハ刈入ヲ遅延セシメ爲メニ昨年小麥粉ハ發芽粒ヲ製粉セル爲メ品質甚タシク不良ナリ

在オデッサ日本帝國領事館

昭和九年六月六日 據受

Handwritten notes in Japanese, including the name '佐藤' (Sato).

E.Y. 2. 1. 5-2

本年ハ右農事作業ノ缺陷ヲ除去シ前年以上ノ成功ヲ收ムル爲メ例年ニ比シ各般農事ヲ大ニ早目ニ初メタリ

「ウクライナ」ニ於ケル春蒔狀況ハ五月五日現在一三、四〇八七千「ヘクタール」、「ブラン」ノ八、四％（内穀物ハ八、七六、四千「ヘク」、九三、七％）ニシテ前年ハ五月末日現在ニ於テ一四、〇七三千「ヘクタール」、八三、二％ナリ

主要作物別ニ見ルニ四月三十日現在小麥（一一、六二％）大麥（一、〇六％）燕麥（一、〇五七％）向日葵（一、〇二五％）ハ孰レモ豫定ヲ超過シ砂糖原料甜菜ハ九九、四％ニシテ殆ント之ヲ完了シ玉蜀黍、野菜ハ豫定ノ六割内外ニシテ穀物ニ比シ成績悪シ  
北高架索地方ハ五月九日迄ニ豫定通りノ作付ヲ了セリ

在オデッサ日本帝國領事館

右ノ如ク本年ハ近來ニナク早目ニ（「ウクライナ」ハ前年ニ比シ約一ヶ月、北高架索地方ハ約四十日早シ）播種ヲ了スル次第ナルカ其播種ニ於テハ「ブラン」ノ遂行ノミヲ目的トシ天候ニ關係ナク播種セル爲メ當局ハ「ソフホス」及「コルホズ」ノ注意ヲ喚起シ地方ニ依リテハ一時其播種ヲ差控ヘシメタリ

一、一九三三年「ウクライナ」秋蒔ハ豫定ノ一千万「ヘクタール」ニ對シ九千九百八十「ヘクタール」即チ「ブラン」ノ九千五百ヲ播種シ其發芽狀況モ冬期氣候順調ナリシ爲メ良好ナリシカ本年春期ニ入り降雨少キ爲メ低所ニ於テハ成育良キモ高地ニアルモノハ成育悪ク枯死ノ状態ニ在リ

右對策トシテ「ヘルソン」「ニコラエフ」地方等旱魃甚ダシキ地

在オデッサ日本帝國領事館

方ノ「コルホズ」ニ於テハ「コルホズニキ」ヲ動員シ馬車ニテ河水ヲ運搬シ消防用「ホース」ニテ撒水シ僅ニ枯死ヲ防キ居ル状態ニシテ今暫ク降雨ナキニ於テハ昨年努力セル秋蒔モ大部分ハ枯死（「ウクライナ」各年平均秋蒔枯死率ハ一ニ一五％）スルニ至ルヘク春蒔モ發芽成育ニ惡影響ヲ受ケ所期ノ如キ農作ハ望ミ難キニ至ルヘシ

右報告申進ス

本信寫送付先 在蘇大使

在オデッサ日本帝國領事館



6 18

7.7

E4-3.1.5-3

電 信 案	在 ア カ リ ノ レ 領 事 為 大 臣 宛 郵 第 一 号	(全 ク 封 封 一 一)	電 信 案	外 務 省
主 管 歐 亞 局 長 主 任 第一課 長 昭和九年七月六日 起草				
電送第 10901 10904 號 昭和九年七月六日 午後 4時40分發				
件		發		
在滿蒙外交使 在哈爾濱商務總領事 在浦潮渡總領事 在哈爾濱總領事 南露方面作物不作收		廣 田 大 臣 記 各 子 象 及 物 等 均 名 件 錄 表 依 依 依 依		
人 名 第 七 四 七 號				

寫送先

次 大 臣  
官 官  
亞細亞  
歐 通 條 情 文 人 文 會 米 調  
商 約 報 化 事 書 計 洲 查

電信課長

E4-3.1.5-3

昭 和 9 一 三 四 五 五 7.7 暗  
オデツサ 六月十一日後發  
本 省 七月五日 後着 歐

廣 田 外 務 大 臣  
郵 第 一 號  
本 官 發 滿 洲 里 宛 電 報  
第 三 號  
貴 電 第 二 號 二 關 シ  
南 露 方 面 作 物 ハ 四、五 月 早 魘 ノ 爲 冬 蒔 ハ 多 數 枯 死、春 蒔 ハ 發 芽 不 良  
五 月 末 降 雨 ア リ 幾 分 見 直 セ ル モ 其 ノ 作 柄 ハ 丈 低 ク 實 入 リ 惡 ク 今 後 天  
候 順 調 ニ 進 ム モ 本 年 收 獲 ハ 中 ノ 下 以 下 ノ 豫 想  
大 臣、露 へ 暗 送 セ リ

平 田 領 事

五月十一日午後發  
七月五日 後着

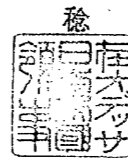
E-1808

機密公第一〇二號

昭和九年八月二十二日

在オデッサ

領事 平田



外務大臣 廣田 弘毅 殿

本年「ウクライナ」ニ於ケル穀物作柄及  
收穫見込高ニ關シ報告ノ件

本件ニ關シ在蘇大田大使ヨリ本官宛問合セアリタルニ付別紙ノ通り  
回報シ置キタリ  
右御参考迄申進ス

在オデッサ日本帝國領事館

EX. 7. 1. 5-3

手係  
ス  
ミ

歌臣司長  
昭和九年九月拾壹日接受  
別添付

寫

公領機密公第三二號

昭和九年八月二十二日

在オデッサ

領事 平田 總

在「ソウイェト」聯邦

特命全權大使 大田 爲吉 殿

本年「ウクライナ」ニ於ケル穀物作柄及  
收穫見込高ニ關シ回答ノ件

本年「ウクライナ」ニ於ケル麥類收穫反別ハ「ソマホズ」(當時播  
種「プラン」發表ナシ)ヲ除ク農民部ノミニテ一九三三年秋蒔ノ九  
〇六三千「ヘクタール」及本年春蒔ノ四九六三千「ヘクタール」、合計  
一四〇二六千「ヘクタール」豫定ノ處其後「ウクライナ」當局ノ發表

在オデッサ日本帝國領事館

E-1808



セル處ニ依レハ本年刈取反別豫定ハ一三、四〇〇千「ヘクタール」(一ソフホズ)ヲ加ヘ一四、六八〇千「ヘクタール」ナルヲ以テ其減少差六十二萬六千「ヘクタール」ハ枯死シタルモノト思ハル

依テ本年「ウクライナ」ノ穀物刈取總面積豫定ハ右ノ如ク一四、六八〇千「ヘクタール」ニシテ前年一五、八四〇千「ヘクタール」ニ比シ約百十六萬「ヘクタール」即チ七四%ノ減少ナリ

而シテ「ウクライナ」農務部ノ公表スル處ニ依レハ刈取狀況ハ八月十五日現在農民部ノミニテ一三、三六〇千「ヘクタール」、「ブラン」ノ九九八%ニシテ大體之ヲ完了シ前年九月五日現在ノ九七〇%ニ比シ大ニ順調ナリ

本年麥穀作物ニ付テハ本春四、五月大旱魃ノ爲メ發育悪ク背丈低ク

在オデッサ日本帝國領事館

穂身モ平年ノ三分ノ二以下ナルニ加ヘ刈取機械ノ利用ニモ困難アリテ刈洩レノモノ多數アル趣ニテ當局ニ於テハ禾堆、打穀作業ノ促進ニ依リ收穫穀物ノ喪失防止ニ努メ居レルカ(前年ニ比シ大ニ順調ナリ)既ニ面積ニ於テ前年ニ比シ七四%少ナク收穫率モ一般ノ豫想ニ依レハ中ノ下程度、一「ヘクタール」ニ付七一八「ツェントネル」(一九〇五—一九一四年平均)〇、四「ツェントネル」、一九三三年ハ一、二「ツェントネル」ナル由ナルヲ以テ右ニ據リ本年收穫高ヲ算出スルニ一〇、七六〇—一、七四四〇千「ツェントネル」トナル(一九三一年—二八九一〇千「ツェ」、一九三二年一〇、〇一三、八千「ツェ」、一九三三年一八、五一一、四千「ツェ」)

尙本年「ウクライナ」穀物作物ニ付當地外國領事館ニ付取調ヘタル

在オデッサ日本帝國領事館

處長年當地ニ在ル獨逸領事ノ談ニ依レハ本年「ウクライナ」ノ作柄  
ハ北部ハ尙幾分良好ナルモ南部ハ旱魃被害甚タシク「ウクライナ」  
全體ニテ穀物收穫見込高ハ昨年ノ五―六掛位、又伊太利總領事ニ依  
レハ本年不作ニ付テハ獨逸領事ト大體同意見ニシテ昨年ノ五―五  
掛位ナラントノコトナリ

然レ共右兩領事館ノ調査ハ主トシテ當地方ニ在留スル向國裔國籍人  
ノ報告ニ俟ツモノ多ク從テ幾分悲觀的傾向アリ第三管ノ公平ナル立  
場ヨリ見ルトキハ本年收穫高ハ差當リ大體當館ノ見込高ニ近キモノ  
ナラント思ハル

右回答申進ス

本信寫送付先 外務大臣


在オデッサ日本帝國領事館

E-1808

0120

電信課長

大臣

次官 

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人文 文書 會計 米會 米調 洲査

寫送先

昭和9年9月17日 略

莫斯科 三日後發  
本省 九月四日前着

歐、通

廣田外務大臣

第四五五號

大田大使

本年度農作物作柄ニ關シ昨今既ニ歐露ノ北部「ウラル」西比利亞方面ヲ除キタル地方ハ大體收穫ヲ終リタル模様ナルニ未タ政府當局ニ於テハ本年度收穫見込高ヲ發表セス右ハ本年六月初當局カ「バン」ノ値上及貯金ノ増額ヲ規定シ一部地方ノ早魃ヲ豫想セルカ如キ法令其ノ他收穫ノ完全ト落穂ノ捨集トヲ勸奨命令セル事實トニ關聯シ凶作ヲ豫想スル向モアル處在「オデツサ」及「ノヴォ」領事ノ報告其ノ他諸種ノ情報ヲ綜合スルニ概シテ成育期ニ於テハ降雨少ク就中「ウ

手記

外務省

クライナーノ一部ニハ相當深刻ナル早魃アリテ客年度ノ半作トサヘ稱セラレ加フルニ人口ノ都市集中ニ基ク農村ノ勞力不足ト收穫作業ニ對スル準備不完全トノ爲作物ノ廢棄ヲ見タル例モ尠カラサル趣ナルモ「ヴォルガ」、「ウラル」、「カザクスタン」等ノ諸地方ハ時季稍々遅レタルモ相當ノ降雨アリタル爲平年作以上ト稱セラレ西比利亞方面亦平年作ニ近キカ如ク作物取入ニ關スル當國ノ激勵モ伴ヒ全聯邦ヲ平均セハ大體平年作タル五十億布度（各種粒穀ノ合計）ヲ稍下レル程度ノ實收ヲ見ルヘキヤニ觀測セラル尙最近主要農作地方ノ視察旅行ヲ終レル在當地獨逸大使館附農業顧問ニシテ斯界ノ一權威タル「シラー」博士ハ初夏迄ノ作柄ニ付悲觀說ヲ唱ヘ居タルモ結局本年ノ實收ハ七千萬「メトリツク」噸ヲ下ラサルヘシトノ意見ナル由ナリ

外務省



公	信	案
<p>ニ付爲御參考右茲ニ通付ス</p>		
<p>本信達付先</p>		
<p>昭和九年九月四日 附在 莫斯科 來信 第四九號 並附屬書寫其 修正通リ作成添付ノコト</p>		

外務省

E-1808

別紙

文書課長

文書課發送 昭和九年九月六日 淨書

主 通商局長 任 第三課長

通三普通 第四五二號 昭和九年九月六日 日附 附屬

受 信 人 曲原持苗 小濱農務局長

發 信 人 東通商局長

記 録 件 名 件 年 度 農 務 局 概 算 三 年 五 件

本件ニ關シ昭和 年 月 日 申附通三普通(合)第 號ヲ以テ申進置タル處

今般(更ニ)在 莫斯科 太田大使 ヨリ別紙認寫ノ通電報告アリタル

秘

逕啓ノ場  
一〇名改ノ場  
下打ノ場

聞利

時

莫斯科

三日發

通

九月四日附着

大田大使電報

廣田外務大臣  
第四十五號

電信寫

本年農産作物作柄ニ關シ昨今以上歐露ノ北部「ウラル」西比利亞方面ヲ除キタル地方ハ大體收穫ヲ終リタル模様ナルニ未タ政府當局ニ於テハ本年收穫概見込高ヲ發表セス右ハ本年六月初當局カ「パン」ノ他上及貯金ノ増額ヲ規定シ一部地方ノ旱魃ヲ豫想セルカ如キ法令其ノ他收穫ノ完全ト落穂ノ集トヲ勸奨命令セル事實トニ關聯シ凶作ヲ豫想スル向モアル處在「オデッサ」及「ノヴォ」領事ノ報告其ノ他諸種ノ情報ヲ綜合スルニ概シテ放育期ニ於テハ降雨少ク其中「ウクライナ」ノ一部ニハ相當深刻ナル旱魃アリテ各年度ノ半作トサヘ格セラレ加フルニ人口ノ都市集中ニ基ク農村ノ勞力不足ト收穫作業ニ對スル準備不完全トノ爲作物ノ廢損ヲ見タル例モ稀カラサル趣ナルモ「ヴォルガ、ウラル、カザクスタン」等ノ諸地方ハ時季相々變レタルモ相當ノ降雨アリタル爲平年作以上ト稱セラレ西比利亞方面亦平年作ニ近キカ如ク作物取入ニ關スル當國ノ激勵モ伴ヒ全聯邦ヲ平均セハ大體平年作タル五十億布度（各種穀ノ合計）ヲ稍下レル程ノ實收ヲ見ルヘキヤニ視測セラル尙最近主要農作地方ノ觀察旅行ヲ終レル在<sup>モスクワ</sup>大田大使館附農務顧問ニシテ斯界ノ一權威タル「シラー」博士ハ初見迄ノ作物ニ付悲觀說ヲ唱ヘ居タルモ結局本年ノ實收ハ七千萬「メトリック」噸ヲ下ラサルヘントノ意見ナル由ナリ



E4.3.1.5-3)

文書課長 <b>高橋</b> 文書課發送 昭和九年九月十五日 主 歐亞局長 <b>了</b> 管 歐亞局長 <b>了</b> 歐一普通密令 第一三四號 昭和九年九月十四日 附 附屬 淨書 正校(原稿) (淨書) 昭和九年九月十日 起草		件名 聯邦本年度農作物作板ニ関スル件 本件ニ關シ今般在シ聯邦大田大使ヨリ別紙寫ノ通報書アリタルニ付爲御參考右茲ニ送付ス 本信送付先 (昭和九年九月三日附在スルヲ館來(往機電)第四五五號寫並附屬書寫)	件名 聯邦本年度農作物作板ニ関スル件 本件ニ關シ今般在シ聯邦大田大使ヨリ別紙寫ノ通報書アリタルニ付爲御參考右茲ニ送付ス 本信送付先 (昭和九年九月三日附在スルヲ館來(往機電)第四五五號寫並附屬書寫)
發信人 高橋 受信人 廣田大臣 記録名 廣田大臣	發信人 東郷亞亞局長 受信人 廣田大臣 記録名 廣田大臣	發信人 東郷亞亞局長 受信人 廣田大臣 記録名 廣田大臣	發信人 東郷亞亞局長 受信人 廣田大臣 記録名 廣田大臣

14 116

文書課長 <b>高橋</b> 文書課發送 昭和九年九月十五日 主 歐亞局長 <b>了</b> 管 歐亞局長 <b>了</b> 歐一普通密令 第九三五號 昭和九年九月十四日 日附 附屬 淨書 正校(原稿) (淨書) 昭和九年九月十日 起草		件名 聯邦本年度農作物作板ニ関スル件 本件ニ關シ今般在シ聯邦大田大使ヨリ別紙寫ノ通報書アリタルニ付爲御參考右茲ニ送付ス 本信送付先 (昭和九年九月三日附在スルヲ館來(往機電)第四五五號寫並附屬書寫)	件名 聯邦本年度農作物作板ニ関スル件 本件ニ關シ今般在シ聯邦大田大使ヨリ別紙寫ノ通報書アリタルニ付爲御參考右茲ニ送付ス 本信送付先 (昭和九年九月三日附在スルヲ館來(往機電)第四五五號寫並附屬書寫)
發信人 高橋 受信人 東郷亞亞局長 記録名 東郷亞亞局長	發信人 東郷亞亞局長 受信人 廣田大臣 記録名 廣田大臣	發信人 東郷亞亞局長 受信人 廣田大臣 記録名 廣田大臣	發信人 東郷亞亞局長 受信人 廣田大臣 記録名 廣田大臣

14 115

E-1808

0124

秘

陸通

付  
知  
照

電信寫

陸通

陸通

莫斯科 三日午後

陸通

廣田外務大臣宛復報

在莫斯科

大田大使發

附五五號

本年農作物作柄ニ關シ昨會社主歐露ノ北部「ウラル」西比利亞方

面ヲ除キタル地方ノ大體收穫ヲ終リタル模様ナル未タ政府當局ヨ

リハ本年農收穫見込高ク發表セス右ハ本年六月初當局カ「パン」

ノ値上及貯金ノ増額ヲ決定シ一部地方ノ旱魃ヲ豫想セルカ如キ法令

其ノ他收穫ノ完全ト落穂ノ檢集トヲ勸奨命令セル事實トニ關聯シ凶

作ヲ豫想スル向モアル處在「オデツサ」及「ノヴォ」領事ノ報告其

ノ他諸種ノ情報ヲ綜合スルニ概シテ放育期ニ於テハ降雨甚ク就中「ウ

クライナ」ノ一部ニハ相當深刻ナル旱魃アリテ本年農作物トサヘ

テセラレ加フルニ人口ノ都市集中ニ基ク農村ノ勞力不足ト收穫作業

ニ對スル準備不完全トノ爲作物ノ廢損ヲ見タル例モ稀カラサル懸ナ

ルモ「ヴォルガ、ウラル、カザクスタン」等ノ諸地方ハ時季稍々遅

レタルモ相當ノ降雨アリタル爲今年作以上ト稱セラレ西比利亞方面ニ

亦今年作ニ近キ方如ク作物取入ニ關スル當國ノ激勵モ伴ヒ全聯邦ヲ

平均セハ大體今年作タル五十億布度（各種穀穀ノ合計）ヲ稍下レル

程度ノ實收ヲ見ルヘキヤニ觀測セラル尙最近主要農作地方ノ觀察旅

行ヲ終レル在雷地獨逸大使館附農務顧問ニシテ斯界ノ一極地タル「シ

ラー」博士ハ初夏迄ノ作柄ニ付悲觀說ヲ唱ヘ居タルモ結局本年ノ實

收ハ七千萬「メトリツク」噸ヲ下ラサルヘントノ意見ナル由ナリ

E-1808



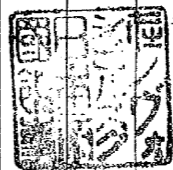
普通第 〇三號

昭和九年九月二十九日

左ノガクシニルヌク

領事代理 小柳 秀生

外務大臣 廣田 弘毅 殿



為地方穀類收獲列入状況トモロトレク

ノ東西ニ因レ報答ノ件

西都西地利地方本年度收獲予想ニ因レテハ、（農表ニ）八月十七日附書

通入ノ一考概屬シ以テ報答申進レ置タル所ナルガ、其後ノ狀

況ニ引續々思ハレカラス、本年度ノ收獲ハ悲觀ナルニ至レリ。

為地方ニハ七月下旬以降時々降雨あり、為ニ畝稼甚シキマ

ベク等野菜類ノ發育ハ其ノ面ヨリ一新ナルニ至リタルハ、穀類將  
ニ小麥ニ取ツテハ、既ニ時期適レ、降雨ハ結實期ニ入りタル為即チ  
チ不長ナル結果ヲ招来タルニ至レリ。

又及反爾スル所ニ依レバ、農作ヲ停ヘラレタル南部地方ニ對シ、大  
耕墾未シ、大被害ヲ与ヘタル由ニテ、該地方ノ一般的收獲ハ、傳統長  
好メラザルコト列明シ、七月下旬ニ至リ、為地方本年度ノ收獲ハ  
大勢次ニ各方面、極微其他ヲ綜合シ、大要左ノ通列断ニラル、  
ニ至レリ。

西都西地利地方 南部地方 平年並

其他ノ西都西地利地方 平年並以下（積兎作ノ所多シ）

東都西地利地方 平年並以下

ワラル洲 平年並

カガクスタン 平年並以上

E-1808



然ルニ實際ノ收獲ハ右予想ヨリ遙ニ悪シキガ如ク新聞英地ニ反  
映ナルノ者局ノ收獲判入対策ハ八月下旬ヨリ九月初旬 九月初旬  
ノ中旬ト次第ニ峻烈ヲ極メ九月初旬ニハ各機関企業團體ノ勤  
勞員ノ一新ヲ勤員ニ判取ニ考ラシメ同月中旬ニハ専任生徒軍隊  
ニ至ル迄總勤員ニシテ收獲ノ実績ヲ考テ努力カタル所イリタルニ一  
般人心極度ニ弛緩シ莫面目ニ効ク者少キト若局指導者及免  
省幹部ノ急復ニ「コルホド」ノ「ホド」ノ全般的勤勞規律ノ額  
降ノ為実績ノ均等ヲ大九月中旬新多紙ニ発表セラレタル八月  
中ノ穀物判取ノ成績ハ計畫ノ五ノ一僅ニ達行レタルニ過ガレガ  
如ク魏体ヲ強シタル為局ニ在テハ又字通大業ニイリ免支部並  
ニ執行委員会ノ名ヲ以テ長徒早ニ責任者不履行者違反者ニ對  
スル警告力至処罰ノ決定ヲ公告シ大ニ盡力カタル所イリ特ニイ  
日ノ各地秘函紙ハ十五日附西都西都利地方執行委員会及共

産地地方委員会ノ決定トシテ執行委員会新部員 各區党書記長  
各區執行委員 橋樑「ドラクタイ」ステーション理事 同政務部長「コ  
「コ」コルホド」新部員ニイテ余名ヲ考テ一九三三年一月十九日附  
史次足ノ穀物ノ國家納入義務ヲ達行レ得ヤル時ハ政府ノ責任ヲ  
取り裁判ニ付シ免ヨリ陳名ニ「コ」コルホド」公表ニ警告カタル所イ  
リタルガ九月初旬ヨリ判入ノ時期ヲ適シ備和統ノ為各地方穀類  
ノ判入ハ大打撃ヲ受ケ各局ノ努力ニ大平水光ノ降ナルニ至レリ。  
西都西都利地方並東都西都利地方ニ在ケル收獲実績極度ニ考  
ラザリレコトハ各地方ガ「コ」コルホド」縣邦穀類産地トシテ「コ」コ  
ルホド」重要地タルヲ以テ痛ク中史各局ノ注意ヲ喚起シタルニ如  
ク九月六日「コ」コルホド」紙ニ社説ヲ以テ西都西都利地方ノ收  
獲実績ノ考ラザリシ非難シ又同月十六日「コ」コルホド」紙ニ不  
社説ヲ以テ西都西都利「コ」コルホド」對シ警告カタル所イリ且

E-1808

又、朝鮮邦人民委員会議長、スコトワラ特ニ当地方ニ遊シテ徽  
黠ノ此ニ有ラシムル所ナルニ至レリ。

司公ハ六日、夜当地着、教日同当地滞在、上、バルイヨール、  
スクレ方面ニ赴キ、夜イメ日、プロコピエフスク、オハロ、スターリンスク、  
ババシ地方ヲ巡視シ、イ九日、自ヨ来、ノサレシ、荒田係者、集會ニ  
於テ徽黠的深説ヲナシ、イ日、当地焚燒莫、遂ニ就キタルガ、  
当地方一般、望氣ハ敢令、セロトイ、来由ナルモ、今日ニ遊イハ、何等  
ノ効果ナカレバ、ソレ、穢ニ居リ、利ニ日、至テハ、反映之無カリキ。

当地親行委員会、此ヲ、收獲ノ要領ヲ考ゲル一手段トシテ、本  
年九月一日ヨリ、ノルホト、ノフホト、個人畏、為難、  
等、市場自由放棄ヲ禁ジ、且、為難、  
日、賃金、代リ、イ、イ、イ、  
ニ、為難、  
ニ、為難、

市人、大半ハ、  
慘狀、

而シテ、九月、  
現在、  
一、  
ハ、  
リ、  
右、

此、  
乾草、  
状、  
右、

本、  
在、  
在、  
以、



歐亞局  
公普通第二七五號

昭和九年十月三日

第一號



昭和九年拾月拾日

接受

別紙添付

在滿洲里

領事 田中文一



外務大臣 廣田弘毅 殿

(以別紙代)  
件名

切ハイカル方面ノ收獲不成績ニ關スル件

本件ニ關スル十月三日附在滿大使宛

拙信普通第二六七號寫送付ス

E-1808





寫

普通第二六七號

昭和九年十月廿

在滿洲里

領事 田中文一郎

在滿洲國

特命全權大使 菱川隆殿

「ザバイカル」方面ノ收穫不成績ニ関スル件、  
 「ソ聯邦」ウラル」以東各地ノ穀物收穫ハ其後  
 相當進捗シ九月十五日現在ノ狀況ニ関スル政  
 府公表ニ依ルニ極東「ヤクウツク」及東部西伯  
 利ハ作付反別ノ九割近クノ刈倒ヲ了セルカ  
 西部西伯利ハ最近大ニ努力セルニモ不拘尚

在滿洲里日本領事館

三割餘ノ刈倒アリ

然レトモ打穀及禾堆積シテ保存セルモノ又  
 ハ畑ヨリ搬出セルモノ少量ニシテ刈倒ノ穀物  
 及取入未了ニシテ畑中ニ刈倒シタル儘残サレ  
 タルモノハ割合ヲ算出セハ「ヤクウツク」及東部  
 西伯利殊ニ「チタ」州ニ殆ト全部其儘ニナリ居  
 リ其成績極メテ不良ナリ之カ為メ「ブリヤト  
 モンゴル」共和國及「チタ」州ニハ東部西伯利共  
 産党支部長「ラツウ」モ「九月二十日」イルタツ  
 クヨリ「管下村落」出張シ親シク收穫ヲ指揮  
 スルノ止テ至リ之カ為最近ニハ相當ノ進  
 境ヲ見タリ而シテ西部西伯利ハ不成績ニ  
 付テハ「聯邦」内閣ノ決議ノ次第モアリ且統理

在滿洲里日本領事館

モロトフハ同地方ニ出張シ來リ重工業ト共ニ斯業ヲモ督勵スル處アリタリ  
 ヲラル以東地方穀物收穫ニ関スル九月十五日現在ノ政府公表ヲ示セハ左ノ如シ(表中白印ハ作付総反別ニ対スル%)  
 未刈倒及取入未了ハ當館ニ算出セルモノ

州	刈倒	打穀	未刈倒及取入
スウエルドロフスヤ州	六三七	八五	四二
チリヤビンスカヤ州	三〇三	六八	三九
ホフスヨオトルヤ州	一三二	七九	二八
西部西伯利亞	四六七	六二	二五
東部西伯利亞	六一九	四八	一七

在滿洲里日本領事館

内	チタ州	極東地方	ヤクウト地方	全聯邦	前年同期
チタ州	二五七	七二	一、一	四、七	九五
極東地方	二七八	七八	一	一	一
ヤクウト地方	五九八	九〇	三三	四〇	六四
全聯邦	七六三	八六	二二	一	九九
前年同期	七六三	九三	六七	八四	二二
東部西伯利亞	七六三	九三	六七	八四	二二
西部西伯利亞	七六三	九三	六七	八四	二二

在滿洲里日本領事館

成績ニシテ殊ニ東部甚タシ  
 右收穫作業成績不良ハコルホズレ及ソフホズ  
 等ノ社會化部内ニ甚シク其ノ原因ハ農民カ勞働ヲ欲セス朝ハ遲出ニテ仕事振不熱心ナルト一面作柄良好ナリトテ幾分安心シタルニモ在リ

トセラル

右不成績以コルホズ及ソコホズニ及地方党部  
責任者ニ対シテハ責任者ヲ延分シ團體名ヲ黒  
板ニ記載スル制裁ノ外地方執行委員會ハ穀  
物、肉、牛乳等ノ政府納入ニ關スル特典ヲ廢  
止方ヲ中央ニ申請スル旨決議セリハ  
東部、西伯利、コルホズニ及同會員ハ本年二月  
五日附政府ノ決定ニ依リ穀物具ノ他ノ農産  
物上納免除ノ特典ヲ與ヘラレ收穫後上納ス  
ヘキモノハ貸下種子ノ返納、農業機械、トラクタ  
貸下所ニ對スル農業機械使用料タル現物ノ  
納附人ニシテ之等義務ハ九月末日迄ニ完了  
スヘキ是ナル其ノ納入成績ハ收穫成績ノ不

在滿洲里日本領事館

良ト相俟テ甚タシク不良ナリコブリヤト共和  
國ノ如キ農業機械使用料ハ九月十日迄ニ年  
額ノ五%ヲ納入セリノミナリ(全聯邦ニ於テ  
九月十五日現在年額ノ五七%貸下種子返納  
ハ五七%ナリ)

高シテ穀物ノ義務納入高ハ九月十五日現在  
全聯邦ニテ年額ノ七%ニ達セルニ東、方各地  
ハ不成績ニテ五五%就中西部、西伯利ハ一五  
八%東部、西伯利ハ一〇%ニナリ  
收穫以外ニ明年ノ播種準備ノ耕耘モ亦不  
成績ナリ右報告申進ス  
本信寫送付先 外務大臣

在滿洲里日本領事館

電信課長

昭和9年10月17日 略  
本省 十月十四日後着 通

大臣

廣田外務大臣

小柳領事代理

次官

第四五號

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計 國會 調查

西部西比利亞地方本年度農作ハ既報ノ通り平年作以下ト見ラレ然モ  
收穫ハ豫定ノ如ク進捗セス十月十日現在ノ計畫六〇%脱穀三八%ヲ遂行セル  
ニ過キス尙約三百萬ヘクターノ穀物ハ放置サレ腐蝕ノ危険ニ曝  
サレ居ル状態ナルカ中央ニ於テハ當地方ノ成績ヲ重大視シ曩ニハ「  
モロトフ」首相自ラ出馬新收穫不良ノ原因ハ當局及各機關指導者ノ  
怠慢不規律ニアリトシ之カ善後處置ニ付嚴達ヲ與ヘ爾來計畫不履行  
ノ責任者トシテ馘首、黨籍剝奪、裁判ニ附セラレタル者數十名ニ及

寫送先

外務省

ヘルカ更ニ黨中央委員會書記「カガノ ウイツチ」來「ノボ」徹底  
的手段ヲ講スルト共ニ不純分子ノ清掃ニ一大斧馘ヲ加フルヤニテ一  
般ニ衝動ヲ起シ居レリ  
露ニ暗送セリ

外務省

E-1808

0133

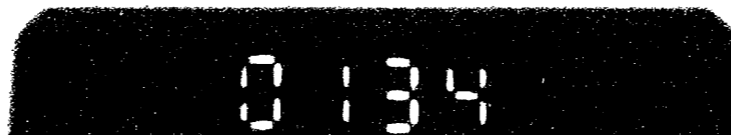
公 信 案	外 務 省	ニ付爲御参考右茲ニ送附ス	本信送付先	(昭和九年十月十四日附在) 柳代理 來電 第五五號 (並附屬書) 寫其修正通リ作成 (添付ノコト)
-------------	-------------	--------------	-------	---

歐亞局

[E9.7.1.5-2]

文書課長	文書課發送	昭和九年拾月拾五日發送済	淨書	正校(原稿)	(淨書)
主 管 通 商 局 長	任 主 第 三 課 長	昭和九年拾月十五日 附屬	昭和九年十月十五日 附屬	昭和九年十月十五日 附屬	昭和九年十月十五日 附屬
通三機密 第五二號	昭 和 九 年 拾 月 拾 五 日 附 屬 有	15 179			
受 信 人 名	農林省 小濱農務局長	發 信 人 名	事務通商局長	記 録 件 名	旅行ノ報告書
件 名	西部西北利根地方本年農作物概況ニ关スル件	件 名	旅行ノ報告書	記 録 件 名	旅行ノ報告書
本件ニ關シ(昭和九年)月 日附通三機密(合)第 號	號ヲ以テ申進置タル處	今般(更ニ在)ノオヒニシテ、ハ柳代理ヨリ別紙寫ノ通電報アリタル			
公 信 案	外 務 省				

E-1808



通

電信寫

昭和9

略

十月十四日發着

通

藤田外務大臣

第四十五號

小柳領事代理電報

西部西比利亞地方本年度農作ハ既報イ通り平年作以下ト見ラレ然モ  
 收穫ハ豫定ノ如ク進捗セス十月十日現在ノ計畧ノ六〇%脱穀三八%ヲ遂行セル  
 ニ過キス~~ノ~~約三百萬「ヘクター」ノ穀物ハ放置サレ腐蝕ノ危險ニ曝  
 サレ居ル狀態ナルカ中央ニ於テハ當地方ノ成績ヲ重大視シ糞ニハ「  
 モロトフ」首相自ラ出馬新收穫不良ノ原因ハ當局及各機關指導者ノ  
 怠慢不規律ニアリトシ之カ善後處置ニ付嚴達ヲ與ヘ<sup>且</sup>爾來計畧不履行  
 ノ責任者トシテ<sup>西</sup>誠首、黨籍糾奪、裁判ニ附セラレタル者數十名ニ及  
 ヘルカ更ニ黨中央委員會書記「カガノ ウイツチ」來「ノボ」徹底  
 的手段ヲ講スルト共ニ不純分子ノ清掃ニ一大斧鐵ヲ加フルヤニテ一  
 般ニ衝動ヲ起シ居レリ

以上

E-1808

0135

要寫

分類 E 4.3.1.5-37

公 信 案	本件ニ關シ今般在(トイレル)ノ中柳多クハ既ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付爲御参考右送付ス	陸軍省 永田軍務局長 參謀本部 磯谷第三部長 森林省 小澤農務局長	歐一機通 第四一九〇號	昭和九年拾月廿六日	昭 和 九 年 拾 月 廿 六 日	日 附 附 屬	東 郷 歐 亞 局 長	作 指 出 九	20 記 72
			主 歐亞局長 任 第一課	主 第一課	昭 和 九 年 十 月 十 一 日 起 草	正 校 (原 稿)	發 信 人 名	記 録 件 名	文 書 課 發 送

要寫

分類 E 4.3.1.5-38

公 信 案	本件ニ關シ今般在(向)田中領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付爲御参考右送付ス	陸軍省 永田軍務局長 參謀本部 磯谷第三部長 森林省 小澤農務局長	歐一機通 第四一九〇號	昭和九年拾月廿六日	昭 和 九 年 十 月 廿 六 日	日 附 附 屬	東 郷 歐 亞 局 長	作 指 出 九	16 記 32
			主 歐亞局長 任 第一課	主 第一課	昭 和 九 年 十 月 十 一 日 起 草	正 校 (原 稿)	發 信 人 名	記 録 件 名	文 書 課 發 送

E-1808



歌臣局

公第一三〇號

昭和十年六月十八日

在オデッサ

領事 平田



外務大臣 廣田 弘毅 殿

南露地方ニ於ケル穀物作柄ニ關スル件

南露方面ニ於ケル 本年春蒔状況ニ關シテハ、五月八日付公第一〇號ヲ以テ及報告置キタル處、其後聯邦農務部發表ニ依レハ、六月十日現在南露方面ノ春蒔状況ハ左ノ如シ（單位千ヘクタール）

全蘇聯邦	九一、二一九	對ブラン%
ウクライナ	一五七、二七	一〇〇、四
アソフ黒海地方	五〇、四一	一〇〇、五
北高架索地方	二、四七五	一〇、四
		一〇、三

在オデッサ日本領事館

昭和拾年七月拾壹日接受

スタリングград地方 二、六一七 一〇〇、八

サラトフ地方 三、四〇〇 一〇〇、三

ウオロネジ州 三、九六三 九九、九

クウルスク州 二、八三三 一〇〇、〇

右ノ如ク春蒔ハ六月十日迄ニ之ヲ完了シ南露及「ウォオルガ」下流地方ハ孰レモ相當ノ成績ヲ擧ケ豫定ヲ超過シ計畫ニ達セサル地方モ工業原料用ノ遅蒔種ノ手間取レル爲メニシテ穀物ハ各地方共豫定通り播種シ聯邦全體ニテ六月五日現在「ブラン」ニ對スル割合ハ小麥一〇、五一%、燕麥一〇、二七%、穀物計一〇、二二%ナリ

本年春蒔殊ニ穀物作付ノ好調ニ關シ當局ハ左ノ諸點ヲ擧ケ本年ハ一九三〇年及一九三三年ニ劣ラサル豐作ヲ擧ケ得ルモノト豫想シ居レリ本年當局カ豐作ナリト力説スル根據左ノ如シ

(イ) 作付ヲ早目且短期間ニ終了セルコト

本年ハ入春遅レタルニモ不拘播種ハ全聯邦ニテ前年ノ六月十日ニ對シ五月二十五日迄ニ大體終了シ作柄ニ最モ關係アル五月中ノ作

在オデッサ日本領事館



付反別ハ前年ノ三千六百二十萬「ヘクタール」ニ對シ五千萬「ヘクタール」ニ及ヘリ  
 「ウクライナ」農務部長「パベルヌイ」ノ談ニ依レハ最近年々各年共六月一日ノ作付狀況ハ一九三一年八三%、三二年六七%、三三年八三%ニ對シ本年ハ五月三十日現在九九四%ナリ

(四) 冬期犁起地ノ作付増加セルコト  
 「ウクライナ」ノ春蒔總反別中冬期犁起地ニ播種セルモノハ全體ノ六八%ニシテ前年ノ三三%ニ比シ著増セリ

(五) 施肥ノ増加セルコト  
 優良種子ノ播種増加セルコト

(六) 「ウクライナ」ノミニ付テ見ルニ優良種子ノ播種反別ハ前年ノ九萬「ヘクタール」ヨリ三十六萬五千「ヘクタール」ニ増加セリ  
 右諸條件カ穀物ノ收穫率向上ニ寄與スル處大ナルハ當局ノ言ノ通ナルカ其實際作柄及收穫豫想ニ付各種新聞其他ノ報道スル處左ノ如シ

△ 全聯邦ノ作柄ニ付收穫査定委員會ノ發表スル處ニ依レハ六月一日現在穀物作柄ハ「上ノ部」一四%、「中ノ上ノ部」三六%、

在オデッサ日本領事館

「中ノ部」三二%、「中ノ下ノ部」一〇%、不良ナルモノ五八%トセラル

△ 「キエフ」州農務部長「ロマニ」ノ言ニ依レハ本年收穫率ハ一「ヘクタール」ニ付一〇一「ツェントネル」ナリ

△ 「オデッサ」州收穫査定委員會ノ發表ニ依レハ穀物ノ三分ノ一ハ上ノ部ニ屬シ平均シテ一九三三年ノ夫ヨリ高シ

△ 「ドネツロベトロフスク」州ハ平均「中ノ上」トセラル

△ 「アソフ黒海」地方ハ一九三〇年來ノ豐作豫想ニシテ平均收穫率ハ冬蒔小麥一、六「ツェ」、前年ニ比シ冬蒔小麥ハ七四%、春蒔小麥ハ六五%、大麥ハ一〇%高トセラル

△ 「クリミア」ハ五月下旬氣候不順ノ爲メ作柄幾分惡化セルカ收穫査定委員會ノ調査ニ依レハ冬蒔小麥ノ五割五分ハ一「ヘクタール」ニ付一三「ツェントネル」、四割二分ハ一「ツェ」ニ付一三「ツェ」以下トセラル又春蒔モ冬蒔ニ劣ラス良好ナリ

在オデッサ日本領事館

△ 「スタリングラド」地方ハ裸麥一〇「ツエ」、小麥八二「ツエ」  
「大麥九五「ツエ」ノ豫想ナリ  
兎ニ角本年ハ氣候比較的順調ニシテ殊ニ四月ノ多量ナル降雨ハ當局  
ノ強制的措置ト相俟テ相當ナル豐作ヲ約束シ當局ハ目下刈取準備  
ニ銳意努力セル外「ビオネル」ヲ動員シテ虫害ヲ防止シ又收穫穀物  
ノ采堆、打穀、保管、政府買付ニ付テモ早日ニ準備シ居レリ  
「オデッサ」附近ノ狀況ヨリ推シ刈取ハ本月末乃至來月初メ頃ヨリ  
開始セラル、モノト思ハル  
右報告申進ス

本信寫送付先

在蘇大使

在「ノウオシビルスク」領事

在オデッサ日本領事館

E-1808

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和10

一四九一三

9.25

莫斯科  
本省

九月廿二日前着

歐

廣田外務大臣

大田大使

第四五九號

穀物取入ハ大體終了セルカ多少不作ノ地方無キニアラサルモ全國概シテ作柄良好且ツ取入時期ノ天候モ大シテ悪シカラス記録的農作ノ一九三三年以上ノ收穫トサヘ唱ヘラレ日々ノ新聞ハ多クノ地方カ期限以前ニ穀物ノ政府納入ヲ完了シツツアルコトヲ報シ居レリ、又天災ハ初夏多大ノ蟲害ヲ傳ヘタルモ其ノ後發育良好今ヤ略取入ヲ終リタルカ食料工業人民委員ハ本年度正當豫想高ヲ百五十五萬「キロ」噸ト發表シ豫定額ヲ超過スルコト十萬「キロ」噸ニ達セリ亞麻、向

外務省

日葵等ハ未タ詳細不明ナルモ餘リ不良ノ聞込ミ無ク察スル所相當ノ作ナルヘシ

外務省

九月廿二日  
廣田外務大臣  
大田大使

主信	5	1	6
附甲	5	1	6
乙			
丙			
丁			
總務	E 4. 3. 1. 1 - 3)		

要寫一部  
懸案

公文書案	昭和十一年八月五日 日附在莫斯科科館來(送電機第548)號寫單附書寄	本件ニ關シ今般在莫斯科科館代理大使ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付御參考ト爲右茲ニ送付ス	本信送付先農林省、陸軍省、海軍省、軍令部	件名	ソ聯本年度農作物採扱ノ件	信人	東郷 歐亞局長	發信	5	5
				名	軍令部 高須 第三部長	名	農林省 農務局長	名	陸軍省 鐵谷 軍務局長	名
外務省				件名	ソ聯本年度農作物採扱ノ件	信人	東郷 歐亞局長	發信	5	5

文書課長 〇〇〇

文書課發 昭和拾壹年八月六日發送濟

主管 歐亞局長 7 主任 第一課

歐亞局長 第二九六三號 昭和拾壹年八月五日 日附 附屬

淨書 〇〇

正校(原稿) 不破(淨書)

昭和十一年八月三日起草

別紙

5 5

E-1808



電信寫

子  
農林  
海陸  
電

陸和軍 十四七三八

略

莫斯科

本節

八月二日 後着

十日 後着

歐

有田外務大臣 宛

酒匂代理大使 宛

第五八號

本年莫斯科地方ハ稀有ノ炎暑早魃ニシテ其ノ他ニモ氣候不順ノ地方  
アル爲「コルホーズ」縣中不作ヲ見越シ「コルホーズ」ヲ脱退シ都  
會ニ職ヲ求ムル者續出シ居ル旨ノ風説モアリ又最近「コルホーズ」  
ニ對シ本年度ヨリ從來ノ單一農業稅（播種セル面積ニ課ス）ヲ課ス  
ルコトトセルハ不作救濟ノ一ナリト觀測スル向モアルニ依リ爲念當  
地獨逸大使館（農業顧問「シラー」博士）及米國大使館（農業顧問  
「マイロ」ニ付當國本年穀物作柄ニ對スル所見ヲ求メタル處兩官（

右兩氏トモ今般各地視察旅行ヲ爲シタル由）觀測ハ共ニ蘇當局發表  
ノ物ト大體同様ニシテ右ニ依レハ作柄ハ歐露中部地方旱魃ノ爲不良  
（特ニ莫斯科地方最不良）歐露北部地方同シク稍不良ナルモ「ウク  
ライナ」、「アゾフ」黒海地方僅少部分ヲ除キ極メテ良好、北高加  
索、「ヴォルカ」地方西部西比利亞孰レモ良好一級平均ハ平年作ヨ  
リ稍良好ノ見込尤今後ノ天候等ハ實收ニ影響スヘキニ付八月下旬ニ  
至ラサレハ決定的觀測困難ナリト



調査部

分類 E 4. 3. 1. 5-3

歐亞局

普通第一八五號

昭和十三年五月十一日

在浦潮斯德

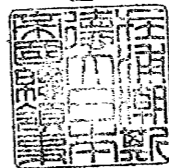
總領事代理 廣岡

任

外務大臣 廣田 弘毅 殿

蘇聯邦ニ於ケル米作ニ關スル件

本月六日附當地機關紙上ニ掲載セラレタル蘇聯邦米作ニ關スル「タツス」報ハ興味アル資料ト認メラル、ニ付右譯出報告ニ及フ  
本信寫送付先 在蘇聯邦大使



查詢 13.6.9 課三

533

件名 蘇聯邦米作ニ關スル件

昭和十三年五月廿五日 接受

在浦潮日本帝國總領事館

蘇聯邦ニ於ケル米作

革命前ニ於ケル我國ノ米作地ハ「トルケスタン」及後高架索ニシテ其ノ平均收穫「ヘクタール」ニ付十三「ツエントネル」ヲ超ヘサリシ處社會主義的建設事業下ニ於テ就中第一次及第二次「スターリン」五年計畫ノ諸年度ニ於テ我國米作經濟ハ大ナル變化ヲ生シ中央亞細亞及後高架策諸地方ヨリ米作ハ極東「クバン」「ウクライナ」及沿「ウオルガ」地方ノ「コルホス」農耕地ニ進出シタリ而シテ蘇聯邦ニ於ケル米作ノ發耕地ハ本來沿海州ニシテ此地ニ於テ馴化セラレタル耐寒性米ハ現在我蘇聯邦内多數地方ニ播種栽培セラレ居レリ軌近米作ノ獎勵ニ對シテハ大ナル注意カ向ケラレ漸次新タナル地方殊ニ北方地區ニ進出シ之カ試作ハ「タタール」地方「セミバラチンスク」州「パウログラード」地方「イルトイシユ」及「オカ」河沿岸、白露等ニ行ハレ現在聯邦共和國十一ヶ國中十ヶ國ハ米作耕地ヲ有シ居リ其ノ北方境界ハ「クイルスク」州ヲ超ヘテ莫斯科州ニ及ヒ「スターリングラード」「クイブイシエ

在浦潮日本帝國總領事館

E-1808

0143

フ「クールスク」リヤザンスク」等ノ諸州ハ新タナル米作地  
 方トナリ莫斯科ニ於テハ「デミトロフ」附近「ヤフロマ」地域ニ  
 栽培セラレ莫斯科市内ノ「デミリヤーゼフ」農科大學内耕地ニ於  
 テハ二ヶ年連續シテ成熟シタリ  
 而シテ米ハ全聯邦農業博覽會内ニ於テ各種ノ植物中ニ見受ケ得可シ  
 現在我國ノ有スル米作地<sup>地方</sup>ハ百ニシテ「コルホス」數壹千、「  
 ソフホス」四、機械「トラクター」元場二〇〇ヶ所ニ達シ年々歳々  
 其ノ耕地面積増加シ其ノ收穫高ノ成功特ニ顯著ニシテ一九三七年  
 度ニ於ケル平均收穫ハ戰前ノ二倍ニ達シ「ヘクター」ニ付二十  
 五「ツェントネル」ヲ舉ケ居レリ  
 今ヤ米作カ主タル農作ヲ爲シツ、アル「カザフスタン」共和國南  
 部「カザフスタン」州及「クズイル、オルデインスカヤ」州ノ多  
 數「コルホス」及機械「トラクター」元場ハ昨年「ヘクター」  
 當リ五十「ツェントネル」ヲ超ユル收穫ヲ舉ケ一部ノ「コルホス」  
 ハ「ヘクター」當リ百「ツェントネル」又ハ夫以上ヲ採取シタ

在浦潮日本帝國總領事館

ルモノアリ例ヘハ「クズイルサルデインスカヤ」州ノ「コルホス」  
 五月一日ハ米ノ收穫ニ於テ一九三七年度全聯邦ノ「レコード」ヲ  
 作り「ヘクター」ニ付百二十一「ツェントネル」ヲ舉ケタリ  
 而シテ米ノ總收穫高ハ一九三二年度ノ十五萬八千屯ヨリ一九三六  
 年度ノ二十七萬三千三百屯ニ達シ一九三八年ニ於テハ四十萬五千  
 屯採取ノ豫定ナリ  
 米作「コルホス」所屬農夫ノ生活ハ裕福ニシテ「マリウーポリ」  
 附近ノ「コルホス、アゾフリス」ノ平「コルホス」農夫「ハン、  
 ウン、デン」ハ六九二労働日ニ對シ二六二九、六キロノ米ト四、  
 五六五留ノ現金ヲ得タルノミナラス其ノ個人的經濟ヨリ五、三〇  
 ○留ノ追加收入ヲ得居レリ  
 一九三八年度ニ於ケル米作ハ更ニ發達スヘク平均收穫ハ「ヘク  
 ター」ニ對シ二十六「ツェントネル」迄増加スヘキ豫定ナルカ個  
 々ノ共和國又ハ地方ニ於テハ右收穫ハ在來ノ米作地ニ於ケル平均  
 收穫ニ對シ倍加セラル、筈ニテ例ヘハ「カザフスタン」共和國ニ

在浦潮日本帝國總領事館



分類 臣 4, 3, 1, 5-3

アリテハ「ヘクター」ニ付三十四「ツエントネル」「クラスノ  
ダール」地方ニアリテハ同シク三十九「ツエントネル」ト計畫セ  
ラレ居ルカ如シ  
而シテ收穫高ノ増加ハ主トシテ肥料ノ使用播種作業期間ノ短縮及  
特撰種米ノ播種ニ依リ行ハル、豫定ナリ  
蘇聯邦ニ於ケル米作ノ可能性ハ廣大ニシテ調査面積ノミニテ百萬  
「ヘクター」ニ達シ居リ中央亞細亞「ウクライナ」「クバン」「  
ドン」地方沿「ウォルガ」地方等特ニ著シ

在浦潮日本帝國總領事館

歌返書

公普通第シ〇三號

昭和十三年五月二十五日

在「ソヴィエト」聯邦

臨時代理大使 西

外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

「ウクライナ」及「ドン」地方ノ米收穫ニ關シ

報告ノ件

五月二十二日附「イズヴェスチヤ」紙ハ「ウクライナ」及「ドン」  
地方ニ於ケル米ノ栽培收穫状態ニ關シ「オデッサ」發「タス」通信  
ヲ掲載セルカ大要左ノ通り  
目下「オデッサ」地方ニ於テハ六八五「ヘクター」ノ面積ニ亘ル米  
ノ蒔付完了近キ状態ニアル處八年前迄ハ「ウクライナ」ニ於テハ米

在ソヴィエト聯邦日本大使館

第一號三(送附済)

件名 農作物  
13.7.04  
歐亞  
一課

昭和十三年七月四日 接受





ノ播種行ハレ一九三五年ニハ八十「ヘクタール」ヲ播種シテ「ヘクタール」ヨリ十八「ツエントネル」ノ收穫ヲ舉ケ昨年度ハ二七二「ヘクタール」ノ面積ニ於テ平均三十二「ツエントネル」ノ收穫ヲ得「コルホーズ」、「モロトフ」ノ「スタハーノフカ」タル「シエフチエシニコ」ハ八十「ツエントネル」ノ記録的收穫ヲ遂行セルカ右「コルホーズ」ノ「ヘクタール」平均米收穫高ハ四十「ツエントネル」ニシテ今ヤ「ウクライナ」米ノ收穫高ハ日本、「エヂプト」、「アビシニヤ」等ヲ凌駕シ「ヴオズシーセンスク」區ノ「コルホーズ」員ハ目下伊太利ノ米收穫高ノ凌駕ヲ目標トシ居リ「シエフチエニコ」ハ本年度計畫トシテ十「ヘクタール」ノ面積ヨリ平均六十「ツエントネル」個々ノ播種區域ニ於テハ「ヘクタール」ニ付九十「ツエントネル」ノ米收穫ヲ企圖セリ尙科學研究勞動モ廣汎ニ展開サレツツアル因ニ「ウオズシーセンスク」ニハ「ウクライナ」米穀播種科學研究所設立サレ二十七ノ「コルホーズ」附屬實驗所之ヲ補助ス

在ソヴィエト聯邦日本大使館

「ドシ」地方ニ於テモ米ノ播種開始サレ「ロストフ」地方三十一「コルホーズ」ハ三百「ヘクタール」以上ノ面積ニ米ヲ播種シ右面積中最大部分「四十」ヘクタール「ハ」タラーソフカ」區ノ「コルホーズ」「新ラシキ途」ニ於テ之ヲ播種シ居ルカ同「コルホーズ」ハ昨年試験播種地ニ於テ「ヘクタール」ヨリ六十「ツエントネル」ノ收穫ヲ收メタリ

右報告申進ス

在ソヴィエト聯邦日本大使館



調査部

分類 E 4.3.1.5-3

歐亞局

普通第二五〇號

昭和十三年七月四日

在浦潮斯德

總領事 七田基玄

外務大臣 宇垣一成 殿

極東地方ニ於ケル米作ニ關スル件

六月二十九日哈府「チーホオケアンスカヤ、ズヴエズダ」紙ハ米作  
振興ニ關シ大要左ノ如キ記事ヲ掲載シ居ルニ付御參考迄譯報ス

左記

極東地方ハ氣候、地味等ノ關係上我國ニ於テ將來最モ有望ナル米作  
地ノ一テアル

専門家ノ調査ニ依レハ我地方ニ於テ米作ニ適スル土地面積ハ三十萬  
「ヘクタール」ニ上リ而シテ「ヘクタール」ニ付平均三十五乃至四〇

在浦潮日本帝國總領事館

件名  
極東地方ニ於ケル米作ニ關スル件  
昭和十三年七月拾四日接  
13.7.30  
課三

657

「ツエントネル」ノ收穫ヲ上ケ得ルノテアル  
一九三〇年度ニ於ケル播種面積ハ一萬六千四百五十四「ヘクタール」  
ナリシカ灌溉作業ニ於ケル國民ノ敵ノ破壞工作等ノ爲爾後逐年減少  
ノ傾向ヲ示シテ居ルカカ他ノ一因トシテ農業機關集團農場ノ休田  
ニ對スル手入ノ怠慢ヲ上ケ得ルノテアル  
本年度ノ播種成績モ不満足ナルモノニシテ「ウスリ」州ニ於テハ  
播種面積ノ七十%、沿海州ニテハ二十三%、「シユマコフカ」「ノボ  
ネチンスカヤ」及「レルモントフカ」機械「トラクター」配給所ニ  
テハ六月一日迄ニ僅ニ二十%ニ過キヌ又「カリニン」區ニテハ全  
然播種ニ着手シテ居ラヌノテアル  
之等ハ總テ機械「トラクター」配給所カ米作ニ對シ多クノ注意ヲ拂  
ハサルニ歸因スルモノニシテ例ヘハ「シユマコフカ」機械「トラク  
ター」配給所ノ如キハ既ニ播種期ノ經過セル後ニ於テ之カ準備ニ取  
カ、リ「レルモントフスカヤ」機械「トラクター」配給所ハ集團農  
場ニ對シ全然指導ヲ與ヘナカツタノテアル

在浦潮日本帝國總領事館

E-1808

第4.3.1.5-3

情報部長

極秘

寫

通商局長

第一課長

第二課長

外務大臣

機密第一九〇號

昭和十五年六月十三日

在綏芬河領事

下村 未 郎

在滿洲國 特命全權大使 梅 津 美治郎 殿

一九三九年度極東ソ領穀物收穫高ニ關スル件

哈爾濱特務機關作成ニ係ル本件資料當地特務機關ヨリ入手セルニ付何等御參考迄別添ノ通送付ス御査閱相成度

本信寫送附先 外務大臣

在綏芬河日本帝國領事館

一九三九年度ニ於ケル播種ヲ確實ニ實施センカ爲ニハ本年度ニ於テ良ク休田ヲ耕作スルヲ要シ若シ之カ適宜實施サル、時ハ來年度ニ於テ大イニ勞力ヲ省キ得ルノテアル

集團農場米田ノ「スタハノフ」運動者播種ニ關スル農業技術規則ヲ遵守スルトキハ平均四十乃至四十五「ツエントネル」ノ收穫ヲ上ケ得或場合ニハ七十「ツエントネル」ノ收穫ヲ得ルコトヲ證明シテ居ル

集團農場ノ「スタハノフ」運動者及積極分子ハ本年度收穫ノ増加ノ爲努力シテ居ルカ之ニ援助ヲ與フルハ農業機關及機械「トラクタ」配給所ノ義務テアル

在浦潮日本帝國總領事館

別紙添附

一九三九年度ノ極東ソ領穀物收穫高ニ就テ

昭和十五年五月二十八日

要 旨

一、一九三九年度ノ全ソ領穀物收穫高ニ關シテハ同年度ノ一般不作ニヨル爲カソ聯ニ於テ關係資料ノ發表ヲ努メテ避ケアル爲正確ナル收穫高ヲ知ル事困難ナリ、從ツテ極東ソ領ノ同年度收穫高ニ付テモ纏マリタル資料ノ發表ナキモ唯々斷片的ニ現ハレタル若干ノ資料ト極東ソ領ノ從來ノ標準ヨリ推定シ茲ニ同年度極東ソ領ノ全收穫高ヲ判斷セリ

二、文中播種面積及收穫ハ春蒔秋蒔ノ合計ナリ

尙ソ聯邦ノ定ムル穀物トハ小麦、大麥、<sup>燕麥</sup>裸麥、蕎麥、米、豆類（大、小豆、豌豆、蠶豆、鷹豆）黍類（粟、高粱、稗、其他ヲ含ム）玉蜀黍、蜀黍等ヲ總稱ス

三、極東各地方ノ三九年度穀物ノ全收穫高ハ大凡左ノ如ク推定ス（端

在綏芬河日本帝國領事館

數切捨

地方別	千ツエントネル	備 考
ハバロフスタ地方	四、〇一二	一ツエントネルハ六ブード餘ナリ
沿海地方	一、三七六	
チ タ 州	四、五六〇	
イルクーツク州	五、四二〇	
武蒙共和國	三、〇八〇	
計	一八、四四八	一一〇、六八八千ブード

哈機註、極東ソ領ノ穀物播種面積及收穫高ハ共ニ平均全ソ領域ノ

五十分ノ一内外ヲ通例トス

四、參考トシテ末尾ニ三七、三八、三九年度ノ極東穀物播種反別比較表ヲ掲ク

五、本文ノ出所左ノ如シ

在綏芬河日本帝國領事館

三九、三、二〇ザラ  
 三九、八、二九タズ  
 三九、九、一四一四〇、二、一一チズ  
 三九、一〇、一八ウシブ  
 四〇、三、一六哈府ラチオ  
 三九、七、二三ブ、モ、ブ  
 三九、八、二八ビ、ズ

本 文

一、ハバロフスク地方ノ收穫

ハバロフスク地方共産黨委員會第三次總會（一九三九年九月十六日一十八日）ハ三九年度ニ於ケル該地方ノソヴホーズ、コルホーズノ收穫向上ヲ指摘セルモ右ハ僅少ノ地區ニノミ言及シ得ルモノニシテ極東方面ノ穀倉ト呼ハルルアムール州内マザノフスキイ、セルイシエフスキイ、クイブイシエフスキイ、カガノヴィチエフスキイ諸區ノ收穫準備最モ不良ニ終リソノ着手二五―七日間モ過延セリ

加之該諸區ノコルホーズミイロ、ソヴホーズ指導者等ノ指導宜シ

在綏芬河日本帝國領事館

カラス爲ニ何レモ收穫上大損失ヲ招ケリ（三九、七、二〇チズ）  
 三九年度ハ地方ノ穀物一般收穫全面積ハコルホーズ三六二、七六一ヘクタール、ソヴホーズ七〇、一七一ヘクタール（合計四三二、九三二ヘクタール）ニシテ内作物ノ最大部分ヲ占ムル小麥及身麥（哈機註、大麥、裸麥、豆其他ハ合シテ全体ノ十ノ内外ニシテ數フルニ足ラス）ノ收穫高ハ末妻ノ如クソフホーズ及コルホーズヲ平均シ一ヘクタール當リソヴホーズ六、七ツエントネル、コルホーズ九、六ツエントネルナルヲ以テ之ニ依リ一般穀粒ノ收穫高ヲ推定シテ大差ナカルヘシ即チ前記收穫面積ニ應シテ算出セルコルホーズノ全收穫大約三、四八二、五〇〇ツエントネル、ソヴホーズ全收穫大約五〇〇、〇〇〇ツエントネル兩者合計三、九八二、五〇〇ツエントネルニ對シ其ノ約十ノ加ヘタル四、〇一二、三二五ツエントネル内外ヲ以テ一九三九年度ハバロフスク地方全穀物收穫ト推定シテ大過ナカラシ

在綏芬河日本帝國領事館

附 表

コルホーズ及ソヴホーズ收穫高表（一ヘクタール當）

	ソヴホーズ	コルホーズ
小 麥	七、二ツエントネル	九、九ツエントネル
烏 麥	六、三	九、三
平 均	六、七	九、六

（出所 三九、九、一四トズ  
四〇、三、一六哈府ラチオ）  
三九、八、二ビ、ズ

沿海地方收穫

同地方ノ穀物刈入ハ同年八月二十九日完了セリ、播種計畫面積ハ一五七、九三六ヘクタールナリシモ刈入計畫面積ハ一四四、七五〇ヘクタールニ減少シ且又收穫ハ刈入面積ノ九一、四〇即チ一三二、三〇〇ヘクタールニ及ヘルノミ

在綏芬河日本帝國領事館

哈機註、播種計畫ト刈入計畫面積トノ差一三一八六ヘクタールハ播種計畫ノ未遂行ナルヤ又ハ他ノ理由ニヨルモノナルヤ判斷ノ資料ナシ

於茲三九年度沿海地方ノ全收穫高ニ付考察スルニ一ヘクタール當リノ穀物收穫ハ

小 麥	一、一ツエントネル
烏 麥	一、二
大 麥	一〇、五
裸 麥	八、二
平 均	一〇、四

ナル處右ハ同地方播種穀物トシテ主要地位ヲ占メ他ハ量的ニ算入ノ價值ナク、仍テ上記平均收穫率ヲ以テ實際刈入反別タル一三二、三〇〇ヘニ對スル收穫高ヲ推定セハ三九年度沿海地方穀物（全般）ノ收穫高ハ大凡一三七五、九二〇ツエントネルト觀ルヲ得ヘシ

在綏芬河日本帝國領事館

(三九、八、二九クス)

三、チタ州收穫

一九三九年度チタ州ノ收穫ニ關スル資料全然發表セラレヌ單ニ反別ニ關シ三九、三、二〇附ザ、ラ紙上刈入反別ノ五、四、カ二七、三六三ヘクタールニ該當ストノ記事アリ、之ニヨリ全州内刈入全面積ヲ約五〇六、六〇〇ヘクタート見ルヲ得ヘシ、於茲一ヘクタ―當リ收穫ヲ同方面ノ平均高ニヨル九ツエントネルトシテ計算セハ三九年度州内全穀物收穫高ハ約四、五五九、四〇〇ツエントネルト推定スルヲ得ヘシ  
(三九、三、二〇ザラ)

四、イルクーツ州收穫

三九年度州内收穫面積ハ六〇二、二六一ヘクタ―ニシテ一ヘクタ―當リ收穫ヲチタ州同様九ツエントネルト見レハ全收穫ハ大約五、四二〇、三五〇ツエントネルト推定スルヲ得ヘシ  
(三九、一〇、一八ヴ、シブ)

在綏芬河日本帝國領事館

五、ブリヤート蒙古共和國收穫

播種面積ハ三四二、二四七ヘクタ―ト發表サレタルヲ以テ一ヘクタ―當リ平均收穫九ツエントネルトセハ全收穫高ハ三、〇八〇、二二三ツエントネルト推定スルヲ得ヘシ(三九、七、二三ブ、モブ)

参考

一九三七、八、九年度ノ極東ノ領穀物播種反別比較表(春、秋季播種共)

地方別	年次	一九三七	一九三八	一九三九	備考
ハバロフスク地方		11,100	11,600	11,200	
沿海地方		11,000	11,000	11,000	三九年度分ハ刈入反別ニシテ播種反別ハ不詳
チタ州		11,000	11,000	11,000	右同
イルクーツ州		11,000	11,000	11,000	右同
武蔵共和國		11,000	11,000	11,000	

在綏芬河日本帝國領事館

計	71,470,000	71,070,000	不詳	極東反別(全ソノ約五十分ノ一)
全ソ領域	10,440,000	10,710,000		

(出所三七、八年度ノ表ハ三九年度全ソ領播種面積統計書ニ依ル)

在綏芬河日本帝國領事館

E-1808





E-1808

在紐育日本總領事館

的農法普及セシメ天候ノ悪影響ヲ相殺シ得ルニ至  
 リルニ趣ナリ。  
 肉信記事切按塔村左何等御参考也報告申進ス  
 本信号送付先 在米天快 (附余者見也)

分類 E431.5-3  
 Durant  
 的 相 三  
 三  
 三  
 三

普通第 710 號  
 昭和十三年八月二十七日  
 在血育  
 總領事 若 杉 要  
 外務大臣 中垣一成殿  
 蘇聯農作物狀況ニ関スル 記事 報告ノ件  
 八月二十日附「タイムス」紙上ニテ日「モスコ」發「列ニヨリ」通信ニ  
 依リハ八月月ニ亘リ蘇聯農作物ニ著シキ災害 繼續セル為メ  
 記録破リ、農作物收穫セズタル本年産 穀物收穫ニ  
 累年ノ産ニ及ハズニ至リタカ之ニ決シテ外方米穀増産ノ計畫ニ  
 今、日、回、農、業、ハ、其、東、園、農、場、ノ、經、営、良、好、ニ、シ、テ、科、学

在紐育日本總領事館

第一課

附屬課  
 調査 13.9.26 課三

情 13.9.20 庶

# DRY WIND SHRIVELS SOVIET'S BIG CROPS

Optimistic Estimates of Grain  
and Vegetable Yields Will  
Have to Be Revised

## BUT COOPERATIVES GAIN

Smoother Operation of Farms  
Does Much to Offset the  
Vagaries of Weather

By WALTER DURANTY

Wireless to THE NEW YORK TIMES

MOSCOW, Aug. 20. — The sirocco, they call it in Southern France and Northern Africa, that hot wind from the Sahara that leaves crops blasted and steals vital moisture from men and beasts. In Southern Russia and the lower Ukraine, Volga and North Caucasus — its name is "sukhovoy," "dry wind." Its breath shrivels the swelling grain before it has a chance to ripen.

The sukhovoy this year reduced a grain crop that would have beaten all records to a level below last year's, which totaled 110,000,000 metric tons.

Its effects were far from catastrophic. Russia will not go hungry. But unparalleled hot weather in July and August reduced crops below earlier optimistic estimates. In the northern central provinces the potato crop, which is more and more becoming an important item in the national diet, has been badly hit. Other vegetables have suffered to a corresponding degree.

Some comfort, however, is taken in reports that the collective farm system is at last running smoothly. It is said there are no longer bitter village squabbles and sudden changes of directive personnel. They have mastered mechanical traction, learned the meaning of scientific farming and come to understand that combined effort is worth more than the former starveling individualism.

Of all the changes the Soviet revolution brought to Russia, there has been no other so great, so important and, if you like, so costly in human life as the change from individual to collective farming. But it has been made, and so successfully that in one Ukrainian village you get a collective which built a clubhouse and theatre at a cost of a million rubles.

Another collective says: "We are building a similar clubhouse which will cost more and whose theatre will seat more people."

A third collective says: "Next year we will build a bigger theatre-clubhouse than the others, but this year we are spending money to send our youngsters to study anywhere and what they please."

This information comes from non-Soviet sources. At a great cost this country seems to be solving its agricultural problem, and all that now remains is reasonable luck with weather and a better supply of manufactured goods for village consumption.

普通第七一〇号附録

E-1808

0155

外機密

門	E
類	0
シ	0
アリ	4-2

分類 E43153

發電昭和十七年二月二十五日

昨年度農産狀況ニ關スル件

在「クイブイシエフ」

建川大使

東郷外務大臣

暗第八六號

蘇側資料ヨリ判断スルニ昨年度ハ早魃發生セル可能性アルヤニ推定  
 セラルル處(1)右ノ如キ噂ナキヤ(2)四一四二年ノ穀物ノ出廻狀況カ  
 豫想以上ニ窮屈ナルカ如キ事實見受ケラレサルヤ(3)右事實アリトセ  
 ハ其ノ主タル原因ニ關スル貴見回電アリタシ

外務省

(日本標準規格B5)

E-1808

